“この人に学ぶ”

第８回　後藤新平

全管連　技術参与　小泉智和

後藤新平は、医者なのに人の病気よりも国家の病気を治したいという大望を抱いて政治と取り組みました。医師から衛生官僚、その後台湾総督府民生長官、満州鉄道初代総裁、内相、外相、東京市長、震災後の帝都復興院総裁などを歴任しました。

日清戦争後の帰還兵検疫事業（コレラ対策）では、世界史上類を見ない大規模検疫を行い、今日新型コロナウイルス感染症が流行する中、彼が行った功績が注目されています。

また、関東大震災後の復興計画では優れた才能を発揮しました。その計画は、国の予算の２倍、「大風呂敷」と言われ、実際には削減・骨抜きにされてしまいました。昭和天皇をして「それが実行されていたら戦災がもう少し軽く、東京あたりの戦災は非常に軽かったんじゃとないかと思って、今更後藤新平のあの時のあの計画が実行されないことを非常に残念に思っています」と述べられています。

後藤新平（Yahoo画像より）

○後藤新平の生涯

安政４年（1857）、陸奥国胆沢（いさわ）郡塩釜村（現・奥州市水沢区）で、水沢藩士・後藤実嵩（さねたか）の長男として生まれました。母の実家は、代々藩主に仕える医家で、また幕末の医師・蘭学者の高野長英は後藤家の出で、新平の大伯父に当たります。

明治２年（12歳）、胆沢県の給仕で採用され、安場保和大参事（今日の副知事）の学僕となります。面倒は安場の部下阿川光裕が行い、６年福島県第１洋学校に入学、７年福島県病院（現・公立岩瀬病院）に併設された須賀川医学校に転じ、更に８年から同病院の見習い医員になりました。

９年（19歳）、愛知県令（知事）となった安場とその部下阿川を追うようにして名古屋に行き愛知県病院（現・名古屋大学医学部）に入ります。翌年、大阪陸軍臨時病院（大阪市法円坂にあったが今はない）の傭医となり、西南戦争で負傷し

た将兵の治療に当たりました。

11年、安場から内務省への出張を命ぜられ、この時初代衛生局長長与専斎（ながよせんさい）に、「健康警察医官」制度や改良水道設置の必要性を提言します。14年には、愛知県医学校長兼愛知病院長になり、同年、岐阜で暴漢に襲われた板垣退助の負傷治療を行っています。

16年（26歳）、内務省衛生局に採用され、同年安場の次女和子と結婚。

23年（33歳）、在官のまま自費でドイツに留学、25年帰国、内務省衛生局長となります。

28年（38歳）、臨時陸軍検疫部事務官長に任ぜられ、日清戦争帰還兵の検疫業務を行います。翌年、日清戦争で割譲された台湾の総督府衛生顧問嘱託となり、31年から台湾に赴き、総督府民生局長、鉄道部長、専売局長、民生長官を歴任し、39年（49歳）まで台湾で活動しました。この間、36年には、台湾での功により貴族院議員に勅選されています。

台湾から帰国後、南満州鉄道（満鉄）総裁となり、43年に拓殖局副総裁となっています。

大正元年に逓信大臣兼鉄道院総裁・拓殖局総裁、４年内務大臣、６年外務大臣、８年拓殖大学学長になっています。

９年（63歳）、東京市長に就任、12年４月辞職→９月１日関東大震災があり、翌日内務大臣（副総理格）、29日には帝都復興院総裁となり、震災復興に尽力しますが、12月虎の門事件（摂政宮（せっしょうのみや）〈後の昭和天皇〉狙撃事件）で内閣総辞職により辞任します。

彼の描いた復興計画は、市街地街路の幅を規格化し、交通を系統的に編成すること、公園の配置、市場の配置、市街宅地の区画整理、防火装置、港湾・運河などの施設を整備しようとするものでした。しかし、これは修正に修正を加えられ骨抜きとなってしまいました。

翌年、東京放送局（ラジオ放送：NHKの前身）総裁となります。

晩年は、政治の倫理化運動で、全国津々浦々を遊説、心血を注ぎます。また、少年団日本連盟（現・日本ボーイスカウト連盟）総裁となり、少年たちの健全育成に努めました。

昭和４年（72歳）、講演のため岡山に向かう途中の車中、脳溢血で倒れ、京都の病院で死去。東京で葬儀、都立青山霊園に埋葬されました。同霊園には、北里柴三郎も眠っています。

震災復興・東京駅前行幸通り
（Yahoo画像より）

○後藤新平の名言

人材育成に力を入れ、有能な人への個人的援助を惜しまなかった後藤新平。

そんな彼を尊敬してやまない小池百合

子東京都知事は、しばしば都議会の場や職員に対して後藤の言葉を引用して述べ、最近では後藤のコレラ対策を高く評価した発言をしています。

そこで、後藤新平がたくさんの会話やあいさつの中で述べた名言の幾つかをご紹介しておきましょう。

・一に人、二に人、三に人
・金を残して死ぬのは下だ。事業を残して死ぬのは中だ。人を残して死ぬのが上だ。
・人のお世話にならぬよう。人のお世話をするよう。報いを求めぬよう。
・１に１を加えて億とす。これ根気なり。
・妄想（もうそう）するよりは活動せよ。疑惑するより活動せよ。
・出来るか出来ないかではない、やるかやらないのかが全てである。

○公衆衛生に尽力

後藤新平は、外科医で、名古屋時代には岐阜で暴漢に襲われた板垣退助の治療を行っていますが、内務省衛生局時代からは衛生官僚、そして政治家として活躍します。

明治16年１月、内務省衛生局に採用されますが、同年には東京医学校（後、東大医学部）を卒業した北里柴三郎も衛生局に入局してきます。ちょっとだけ先輩で年下の後藤と後輩で年上の北里とは犬猿の仲になります。しかし、18年北里はドイツ留学、23年後藤も私費でドイツ留学し、コッホ研究所では一緒になり、以後は無二の親友となります。森鴎外も軍医としてドイツ留学、20年にコッホ研究所を訪れており、北里と一緒に勉強しています。

25年、後藤は北里と一緒に帰国、長与の推薦で衛生局長になり、公衆衛生（特に、検疫・予防衛生）の普及に尽力します。北里は、福沢諭吉らの協力を得て伝染病研究所を設立します。

28年に臨時陸軍検疫部事務官長に任ぜられ、日清戦争での帰還兵検疫の指揮を執ります。

広島湾の似島（にのしま）に大規模な検疫所を設置（他に大阪桜島、下関彦島を整備）し、当時コレラが流行していた戦地からの帰還兵23万人の検疫や船舶687隻の消毒に当たり、コレラの国内流入を水際で防ぎました。この時、北里も熱気消毒用機器を開発して似島を訪れています。

後藤は、検疫部長でもある児玉源太郎陸軍次官から評価され、その後台湾総督に就任する児玉によって台湾民政局長に抜擢されます。

29年、台湾総督府衛生顧問嘱託（→民政局長）となり、当時コレラ、マラリア、ペストなどの風土病が蔓延していた台湾で上下水道整備に当たります。実務はバルトン、浜野弥四郎があたり、台湾の上下水道は東京よりも早く建設されました。

大正年代には、東京市で水道水への塩素消毒が始まりますが、これについては、最近になり、水フォーラム代表理事の竹村公太郎氏が後藤新平の功績ではないかと、述べられています。確たる証拠

が今一つないのですが、筆者なりに整理しますと

・大正７年４月に外務大臣となり、８月独ソに対抗する連合軍の一員としての日本軍がシベリア出兵するのに同行しています。この時、程谷曹達工場（現・保土谷化学工業）は陸軍から毒ガス製造の依頼を受け、液体塩素を開発します。しかし、11月に戦争は終結、液体塩素の使い道が無くなってしまいました。後藤は外務大臣５か月で辞任しており、翌年、戦後の欧米巡察の長期旅行に出かけています。

・大正９年東京市長となりますが、関東大震災の２年前の10年12月に強い地震があり、淀橋浄水場への新水路が決壊、明治31年に始まった改良水道以来、初めて３日間にわたる全市断水が起りました。復旧に際し、旧水路も使用できる工事を行い、汚染対策として磯村製脈動乾式の塩素注入設備を設置しました。

・ドイツのコッホ研究所で細菌学を勉強した後藤新平は、不要となった液体塩素を水道の殺菌に採用することを奨励したと思われます。大阪、横浜と順次導入され、乳幼児の死亡率は激減、コレラ等の感染も減少するところとなりました。

＊水道の塩素殺菌については、1893年（明治26年）にドイツで発見され、アメリカでは1914年（大正３年）から実用化か始まっています。

ドイツ留学時代　後藤（左）と北里（右）
（北里研究所ホームページより）

＊明治の時代、コレラ流行の対処は、当初は現在のコロナ対策と同じで、「手洗い」、「換気」、「患者隔離・消毒」でした。然しして、何といっても水系伝染病のコレラに対する最大の対策・効果は上下水道の整備でした。

コレラは、1883年（明治16年）コッホにより発見され、ワクチン接種は1879年（同22年）のパスツールの家禽（かきん）コレラワクチンが開発された以後となります。

今日、日本でのコレラ発症は少なく、極めて珍しい病気となっています。

○後藤新平ゆかりの地

後藤新平は、ドイツ、ロシア、満州、台湾、アメリカなど海外経験も多く、また日本国内でも岩手、福島、名古屋、大阪、広島、東京など各地で活躍していますので、ゆかりの地は非常に多くあります。ここでは、国内のゆかりの地をご紹介します。

①後藤新平記念館：奥州市の記念館には、新平の幼少時代から晩年に至るまでの縁の品が数多く展示されています。記念館の隣には、読売新聞社主の正力松太郎が寄贈した日本で最初の公民館である後藤伯記念公民館があります。＊大正12年の関東大震災後、虎の門事件で内閣総辞職（後藤も内務大臣辞職）、この時、警備責任者だった警視総監と警視庁警務部長正力松太郎が免職となりました。翌年、正力は、震災で壊滅状態だった読売新聞社を後藤の援助で買収、経営に乗り出しました。後藤の没後、後藤が正力に渡した金は自分の家を抵当に工面したものであったことを正力は知り、深い感謝を込めて後藤伯記念公民館を建設したのでした。

水沢公園には、後藤新平の銅像があり、また同公園内には、高野長英記念館もあります。

後藤新平記念館（岩手県観光案内より）

②東京駅周辺：後藤が市長を務めた東京市役所は丸の内にありました。現在は、国際フォーラムとなっています。行幸通りは、天皇が馬車で皇居から東京駅までの間を利用した道、関東大震災後に、震災復興再開発事業として幅員73mに拡幅されました。ここから10分ほど歩けば、後藤が活躍した霞が関官庁街です（明治20年頃までは皇居周辺に点在していました）。

③北里研究所：明治25年（1892）、後藤の口利きもあって福沢諭吉や森村市左衛門らの援助で、港区芝増上寺御成門脇に「伝染病研究所」を設立（今はない）。その後、大正４年に芝白金に「北里研究所」を設立しました。開所式では後藤が祝辞を述べています。

北里は、福沢への恩義を感じ、慶應義塾に医学部を創設、初代医学部長となっています。

なお北里柴三郎は、2024年の新1,000円札の顔になります。

管工事組合の皆さん、その家族の方が東京に来られたら、小泉が②③をご案内します。

申し込み：全管連事務局　無料

＊参考資料

「後藤新平　日本の羅針盤となった男」
山岡淳一郎著　草思社

「後藤新平の〝仕事〟」
藤原書店編集部編

次号では、嘉納治五郎をご紹介します。